

平作川の水質環境調査報告記（令和2年11月17日）

横須賀市環境政策部環境管理課

青木美智

秋の好天に恵まれ、調査日和の清々しい朝9時30分にしょうぶ園駐車場へ集合。
新型コロナ対策で少数人数6名での調査活動となりました。

“ 下流ポイント、収穫物ゼロ、残念！ ”

1か所目の調査場所は、集合場所から徒歩15分ほどの横浜横須賀道路横須賀PA付近の水路です。3面がコンクリート張り、転んでびしょびしょになったりしないかと心配していましたが、晴天続きの影響からか水量が少なく、おかげさまで気苦労だけで済みました。自然・人文博物館の萩原学芸員からタモ網をお借りして「ヨシノボリをゲットだぜ！」（ちょっと古いですかね）と心の中でつぶやきチャレンジしたものの、なにも捕獲することができません。萩原先生をはじめ、皆さんはヤゴ等生物を捕獲しており、経験値と技術の差を感じた次第です。



水少ないけど魚クンは？

“ 小さなカニ君をゲット！ ”

2か所目の調査場所は、阿部倉温泉横の多くの自然が残されている上流部です。こちらも下流部と同様に水量が少なめのように感じました。また、昨年度の台風の爪痕でしょうか、竹などが倒れたままになっているところや人の手によってまとめられているところが散見されました。さて、萩原先生や井上事務局長や嘉山さんはアブラハヤ、ヨシノボリ、カニやエビなどを捕獲しているというのに、初心者はやはり捕獲できません。

萩原先生からタモ網は固定して近くの石を動かしてみましようとのアドバイスをいただき、試みてみますと、なんとカニが。小さいカニをたくさん捕獲することができました。



“ 来年は、会員の皆さんと一緒に参加！ ”

水質環境調査の研修として参加させていただきましたが、今日のように体を動かして見て聞いて触って五感を働かせることは、心身のリフレッシュに繋がります。自然に触れることによる効能を感じて、あらためて自然環境を大切に後世に残したいと思いました。



萩原学芸員の説明に耳を傾ける